

260211 名古屋城天守閣整備事業市民説明会 参加者 143 人（速報）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

13：30

大石課長：はじめる

注意事項説明

意義、進捗状況

本事業へのご理解を

手話通訳、要約筆記、ヒアリング、車いす

譲り合いながら御着席を

質問等の取り扱い 令和5年6月バリアフリー市民討論会差別事案発生後初

同様の問題 開催中の質疑応答を設けていない

考え方とともに説明会内で

すべての質問を紹介しかねる

終了後、個別に質問受け付けする

事業に関する意見はアンケート用紙、WEB アンケートで

意見、質問は一定取りまとめて市の考え方とともに公表する

注意事項 次の行為を禁止

- ・会場内での録音、録画、撮影
- ・自由に発言
- ・拍手、やじ 賛成、反対表明
- ・敷地内でのアンケート、ビラ配り
- ・その他進行を妨げる

行為を制する 止め、注意喚起 退場いただき再入場できない

差別発言、誹謗中傷、相手否定は注意喚起

携帯電話はカバンなどしまつて

報道 プライバシーに配慮した撮影を

会場後方 撮影外 撮影配慮を

説明者紹介

広沢市長 渡辺所長 坂倉課長 細川課長 國井課長 大石課長

広沢市長から挨拶

広沢市長：こんにちは

市民説明会ご参加ありがとうございます

こうして多くの皆様ご参加御礼

令和5年6月 バリアフリー市民討論会 差別事案お詫び申し上げます

検証委員会指摘を重くうけとめ、昨年5月総括
関係団体、市議会、市民に説明を重ねてきた
本質的価値の理解促進 観光促進 安全性確保 多面的に検討
着実に進める 行政だけでなく、市民、議員 オール名古屋の大勢が不可欠
正確で丁寧な情報を届け、共通認識
第一歩となる重要な場
透明性を確保しながら
約3年ぶりの説明の場 総括、概要、進捗状況 今後の進め方

13:39

大石：今から説明する

資料 パワーポイント資料

バリアフリー別冊

事前質問一覧

加えてアンケート、ステップなごやリーフ

パワーポイントに従って説明する

渡辺所長から

13:41

渡辺所長：ご参加ありがとうございます

分厚い資料 お時間を頂き

6ページ

7ページ 事業の概要

現天守課題解決+可能な限り史実に忠実

本丸御殿と相まって本質的価値

参考 本丸整備基本構想図 本丸を現代に

天守だけでなく往時に

9ページ 平成18年 耐震改修

前市長木造復元

平成22年以降両面検討

比較して、大きな効果 木造復元を進めることにした

6割以上賛同 平成29年から事業スタート

現天守 本市のシンボル 当時の建築技術の高さ

全国の代表事例

10ページ 復元の進め方

文化財保護法に基づく特別復元

法に基づく文化庁の許可が必要

文化庁有識者会議「石垣保存に問題がなく、てきてせつな復元計画課」

④復元計画の検討段階での課題

①石垣保存方針

12 ページ 加藤清正天守台

近世から残る石垣 残す必要

天守台、周辺石垣十分調査 影響を与えることがないように

13-14 ページ 経緯

平成 29 年 有識者「調査、体制が不十分」

平成 31 年 現天守解体申請

9 月 文化庁から「調査不足」指摘

有識者指導 石垣調査

令和 5 年 6 月 整備基本計画

15 ページ 解体工事までに保存対策が必要

現天守解体後、穴蔵石垣詳細調査

観覧者の安全確保、基礎構造検討

②バリアフリー方針 16 ページ

可能な限り史実に忠実に

共生社会実現 歴史的建造物復元 バリアフリー整備が必要

17 ページ バリアフリー方針

平成 28 年 3 月 4 人乗り仮設エレベーター提案

平成 29 年 11 月 エレベーター設置せず、チェアリスト方針

事前説明せず公表 当事者から多数抗議

平成 30 年 5 月 エレベーター設置せず「付加設備の方針」公表

令和 4 年 公募 現在開発中

差別事案発生

①市民討論会の開催経緯

公募選定 設置階 前市長「1-2 階までは合理的」

観光文化交流局「できる限り最上階」不一致

設置方針決定 市民の意見を

令和 5 年 4 月市民アンケート 6 月討論会

②概要

一部参加者から差別発言、言い争い

障害者のみに理解を強いる発言

直後の議会「検証、総括が終わらない限り事業を前に進めない」

③検証委員会

- 21 ページ 学識経験者
令和6年9月 最終報告
- ④最終報告問題点
様々な問題点指摘
- 23 ページ以降 再スタートに向けて
- ①総括を取りまとめ
令和7年5月 基本的な方針、進め方を取りまとめ
- 25 ページ 基本的な方針
- ・内部共通認識
 - ・丁寧な進め方
 - ・人権意識の向上と建設的対話
 - ・丁寧な説明と機運醸成
- のちほど担当課長から説明
- 26 ページ 総括の取りまとめ後説明状況
令和7年5月 取りまとめ、議会へ報告
当事者参画の場で対話 9月、11月に出
- 27 ページ 各種会議における主な意見
- ・方針の決め方
多くの人が最上階に
 - ・対話の期間
 - ・整備の内容
 - ・正しい情報発信
 - ・その他
- 市民への情報不足が指摘 11月説明 市民に知ってもらう WEBに載せた
- 28 ページ 今後の進め方
- 4つの課題は重点的に
- ・史実性とバリアフリーの両立
大型エレベーターの要望も受けている ご意見いただきたい
 - ・石垣等遺構の保存
天守台石垣確実に図られるよう
 - ・現天守閣の価値の継承
 - ・市民理解促進と機運醸成
- 29 ページ バリアフリーの重要性
- 全ての方の人権にかかわる 史実性とバリアフリーの両立を目指す
- 階段体験館ステップなごやを設置している
- 実物大の階段模型 実際上り下り可能

バリアフリーの重要性の理解

以上説明終わり

13:58

大石課長：資料 30 ページ

坂倉課長：総括の具体的内容

当局として何を問題、何を反省 どう進めるか

全ては 150 ページ 本日は概要 WEB で公表している

31 ページ 目的

検証委員会受け止め、振り返り 原因の整理 今後の事業推進示す

32 ページ 当局のうけとめ

真摯に受け止め、あらためて深く反省

表現の自由 すべての市民が尊重

34 ページ 再発防止

全ての基礎となる重要な取り組み 人権監理者を中心 主体的に適切に

市民の信頼を大きく損なったことを肝に銘じる

将来に活かす

35 ページ以降 振り返り

36 ページ 差別事案適切な対応できなかった

これまでの事業全体を振り返る必要

事象選定 過去担当者聞き取りを踏まえて

37 ページ 6つ

⑤平成 29 年度 障害者相談することなく「エレベーター設置しない方針」発表

丁寧な説明できなかった

⑥昇降技術 障害者、高齢者 公募と選定

事務方が「できる限り上の階」

前市長「1-2 階」 信頼を損ねる

39 ページ 原因の整理とまとめ

6つの原因

市内部調整不足

人権感覚希薄

経験不足

情報提供不足 復元、バリアフリー 理解に差を生じさせた

スケジュール優先

職員苦悩葛藤

42 ページ 今後

4つ方針

43 ページ

- ・市内部共通認識と円滑なコミュニケーション
市長、副市長、当局が一致
- ・人権意識の向上
- ・建設的対話 当局と当事者 相互理解 バリアフリー検討
- ・多様な人権への配慮
来場者対応 バリアフリー、ユニバーサルデザイン

47 ページ 市民向け説明会 人権侵害の防止

適切な準備期間、応援協力体制 十分に対応を講じる

48 ページ 基本の方針の3つ目

名古屋城に携わるものの意識徹底、学芸員能力向上

49 ページ 分かりやすい情報発信

丁寧に分かりやすい情報発信

50 ページ 市民理解促進と機運醸成

現天守の記録の保存と記憶の継承

議会報告、当事者説明、ご意見いただいていた

総括 最終報告は当然 総括を踏まえて再度おこらないように

14：11

大石：今後の進め方

坂倉課長：52 ページ

先ほど4項目と同じ

議会、当事者説明 あらためて基本的な方針を掲げた

53 ページ 重点的に取り組む

市内部共通認識

各方針推進 重点的に

14：13

國井課長：昇降技術担当

復元における史実性とバリアフリーの両立

55 ページ 共生社会の実現を目指す 適切な事例

木造天守全体のバリアフリーを進める

史実生徒の両立 可能な限り上層階

- バリアフリー あらたな対立を生まないよう 正しい情報発信
- 56 ページ
方針決定流れ
市が必要に応じて有識者相談 指導助言 案
当事者参画の場で示す
意見、要望を踏まえてさらに検討 再度当事者参画 ご理解を
市は案を示す 市民理解 情報発信、意見聴取も
有識者会議に諮ったうえで市としての方針を決める
- 57 ページ 設計高いだけでなく、継続的・段階的に継続的対話
当事者の特性に応じたバリアフリー
令和 8 年末に方針決定できるよう 5 回
- 58 ページ 第三者機関による評定の取得
籠等をステップなごやに点字
観覧計画、昇降設備設置範囲の検討
内部石垣の調査 構造詳細検討

14 : 17

細川課長：石垣等遺構の保存

- 60 ページ 基本的な考え方
本質的価値 近世期残存石垣 厳格な保存管理を行う
現天守の解体、木造天守復元を見据え、劣化 保存対策を優先的に
令和 6 年度から順次工事中
- 61 ページ 保存対策手法
石垣前面 間詰石補充、栗石 補修材 新補石材
右図 対象石垣
- 62 ページ 今後も文化庁、有識者助言をいただきながら
木造 現状変更許可取得までに必要な保存対策工事を実施する

14 : 19

大石課長：天守閣の価値の継承、市民理解

- 64 ページ 価値の継承 愛着やほこり、本市のシンボル 記録や価値
お持ちの思い出を活用
2 点 開館当時の動線、映像制作
解体中 躯体の内部構造を記録し活用
- 65 ページ 市民の皆様 写真、エピソード
新聞、雑誌 データとして可視化 記憶をつないでいく

現天守具材活用 グッズ販売

開館されていたころの展示物

67 ページ ④市民等の理解促進と機運醸成

再建時と同様に木造復元に対する市民理解促進と機運醸成

市民とともに復元を推進

・市民説明会及びシンポジウム

・ウェブにおける情報発信

→わかりやすい説明・市民の理解促進

68 ページ 機運醸成

イベント実施 本丸御殿盛り上がり

芳名板

デジタル技術活用映像

階段体験館ステップなごやの活用

(3) 事業の流れ

70 ページ 現天守解体+復元 一体計画を取りまとめ、

文化庁、審議、現状変更許可

4つの重要な課題

史実性をバリアフリー両立

バリアフリー方針定める 運用を含め詳細検討

石垣遺構保存

劣化など 対策

現天守閣解体後 穴蔵石垣調査 基礎構造を決めて文化庁の許可

現天守閣の価値の検証 正確に外観復元

戦後復興の象徴 適切に保存

市民等の理解促進と機運醸成

意義や目的を伝え、理解を深めていただく

市民説明会 適切な情報を発信していく

本事業を丁寧に進めていく

14 : 28

國井課長：復元とバリアフリーについて

市としての情報発信が不十分

共通認識をはかる

公式ウェブに公開

1 ページ 目次 事業目的、復元考え方、バリアフリー推進

目的 2-5 ページ

特別史跡 理解と促進に資する 価値の理解を深めてもらうことが重要
本質的価値の向上と理解促進 可能な限り史実に忠実

すぐれた文化と歴史、技術を深く知ってもらう

参考イメージ

復元の考え方 6-11 ページ

文化庁基準「復元」として計画

歴史的建造物 規模、形式蓋然性 忠実

配慮事項 防災上の安全性を確保すること

必要な設備を

7 ページ 可能な限り史実に忠実な復元

・史資料調査研究に基づく史実に忠実な復元

多くの人が内部に入れるよう現代設備を付加

8 ページ 現代設備の必要性

正しく伝えるため、史実性を確保

多くの人

建築基準法適用除外

万が一火災等 配慮を

9 ページ 史実に忠実

木造復元の姿 天守一体

宝暦大修理 今に残している

豊富な根拠資料が残されている

10 ページ 現代設備の設置の考え方

事業目的の範囲で付加的に設置

主架構を変更しない

取り外せば当時の姿に戻せる

11 ページ 現代設備

防災、構造補強、バリアフリー設備、照明設備

12-19 ページ

バリアフリーの在り方

両立を図ることが大切 一律に基準を決めるのは困難

当事者参画の下、バリアフリーの検討が筆よ

13 ページ 考え方

バリアフリー法の対象外

バリアフリー法 障害者差別法趣旨に基づき環境整備に努める

14 ページ 基本的な考え方

多くの方が天守内部に入ることが

社会要請バリアフリー

すべての人が

15 ページ 垂直移動 垂直昇降設備の概要

バリアフリー法 11 人乗り 設置スペース大きい 主架構を取り除く必要

構造形式高い蓋然性困難

上層階募り、実用化を目的

16 ページ 参考 3-1

地震で大きく 主架構と干渉する

17 ページ 公募の概要

18 ページ 垂直昇降設備の概要

梁と梁の間を通す

下の階と切り離す

JIS 基準車いす+介助者が乗れる

各階で乗り換える 有効と考える

19 ページ 参考 3-3 イメージ

20 ページ 当事者参画の場 主な意見

エレベーターを最上階まで

より多くの方が上層階に行けることが望ましい

スタッフの補助なしでみんなで

大型エレベーターを含めて検討 技術的に可能か

たくさんの方が登れる昇降機

外付けエレベーターも検討を

21 ページ 次回 2 月予定

・大型エレベーター

・外部エレベーター

・垂直昇降設備 仕様、性能、利用対象者

14 : 41

大石：ここから資料を変えて、事前質問一覧

多くの方から事前に質問 ありがとう

お手元に一覧 一部を紹介する

冒頭で説明 時間の都合 全ては紹介できかねる

いただいた質問 一定取りまとめを行い WEB に考え方と合わせて公表する

①1-1 木造を注視して、耐震後「復元」目指すのは選択肢にないか

口頭：明治初期 永久保存

戦災で天守、本丸御殿焼失 先人史資料

本丸御殿、隅櫓、門 復元可能なものは段階的に復元
本丸を江戸期に再現 歴史や魅力を実体験
耐震改修 現天守を延命もあるが、市としては理解、活用にとって
適切、積極的な意味 存続と木造復元比較考量
木造 本丸御殿とともに本質的価値とともに大きな効果が得られる
木造復元方針にしている

②1-13 避難路、避難計画を示して

連立式天守 小天守のみ地上

大天守 小天守を通して避難

一体的にもなした スプリンクラー

3 - 4 階付加階段

すでに第三者評定を取得 安全性を確保

垂直昇降設備 評定の再取得に向けて調整

③1-21 すでに 10 年 再度市民アンケートを実施しないか

名古屋城整備方針アンケート 回答 6 割支持

本市としては、理解、活用にとって積極的な意味

現天守比較考量 可能な限り

本丸御殿とともに理解促進

整備方針見直すためにあらためてアンケートを取る予定はない

④1-24 本説明会までに建設費、公費、金利、起債条件、採算レンジ

竣工期間見通し

再算定ができない

今後事業が進捗し、竣工期限が定まった段階で、収支計画を

⑤2-4 エレベーターのハード的な設置が難しければ運用面でカバーは

垂直移動の方法 昇降設備設置範囲の方針

木造天守全体のバリアフリー 様々な方からご意見を

本事業設計・施工 継続的に当事者参画の場で検討

管理・運用面

快適に木造天守を観覧し、親しめる意見を

⑥2-11 古くからのものを無理やりバリアフリーにしろとは思わないが、立て直すなら
みんな行けるようにすべき

バリアフリー法対象外と想定

関係法令の趣旨を踏まえ、障害のある人ない人も天守を観覧できるよう

環境整備 史実性とバリアフリーの両立を目指す

垂直昇降設備 柱・梁を取り除かず

JIS 基準車いす + 介助者の同情も可能

バリアフリー実現に有効と考える

大型エレベーター設置を求める意見もある

当事者参画の場合 大型エレベーター設置の場合も検討

木造 歴史的・文化的空間体感・親しんでいただくよう

⑦2-17 合理的配慮が義務付け

障害のある人と事業者 建設的対話を通じて相互理解を深め

高齢者、障害者と対話を重ねる

目的の範囲内でバリアフリー対応を検討

⑧3-2 石垣保存は絶対 壊す際に石垣が崩れるなら、耐震化の方がよい

天守台、周辺石垣 文化庁、有識者調査を重ねた

劣化がかなり進んだところ 早期に保存対策実施する

順次対策工事

⑨4-6 なぜ現天守閣 登録有形文化財登録申請を行わないのか

歴史資産の価値をどう評価しているか

精度の高い外観復元 名古屋のシンボル 愛着やほこり

この地域の観光資源 街の姿を見守る

一方 平成8年度、22年度 地震振動 倒壊、倒壊可能性が高いと分かった

コンクリート中性化、老朽化、外壁モルタル

耐震改修の方法もあるが、本市としては、適切かつ積極的な意味を持つ木造に

現天守閣は一時代を象徴

記録・記憶を後世に

⑩5-3 機運醸成 どう実施するのか 予定に反した市民の意見を尊重しながら

具体的な取り組み 市民説明会、シンポ、情報発信、イベント、芳名板

デジタル技術、階段体験館

今後進捗状況伝えて説明会開催したい

これ以外にも多数ご意見ご質問

時間の都合 紹介できない

後日取りまとめてWEBに公表したい

なにとぞご理解いただきたい

15:01

大石：用意したのは以上

広沢市長から挨拶

広沢：長時間ありがとう

貴重な意見、質問 担当職員真摯に受け止めたい

名古屋の誇り 本質的価値を次世代に確実に引き継ぎたい
冒頭にも進めるためには行政のみならず、議会、市民の心をオール名古屋で
定期的に説明の場 設けたい
共有を図りながら意見をうかがう場を作る
対話で同じ方向を見据え、着実に歩みを進めたい
ありがとう

15 : 03

大石：これで終了

この後の流れ

アンケート 入口の箱

WEB アンケートも 2/13 (金) 17時まで

個別質問 後日公式ウェブ公表

会場後方質問ブース

不明な点 個別に聞く

職員誘導ご協力を

質問整理券 2 か所配布

17時まで 1人あたり3分を目安 ご理解ご了承を
ありがとう

15 : 05